

大学史特集展示「横浜キャンパスの記憶

——「神奈川大学総合計画」完了から半世紀」について

大坪 潤子

はじめに

一九五二（昭和二十七）年、神奈川大学創立者で當時理事・学長であった米田吉盛は「神奈川大学整備拡充計画」を発表した。この計画はその後「神奈川大学総合計画」として具体化し、一九六九（昭和四十四）に完了した。

そこから本二〇一九（令和元）年にいたる半世紀の間に、一九九九（平成十一）年に始まる横浜キャンパス再開発計画などによりキャンパスの姿は変化を続け、まさに現在、みなとみらい地区に新しいキャンパスも建設中である（みなとみらいキャンパス、二〇二一年四月開設）。

神奈川大学が未来へ向けてさらに大きく舵を切ろうとするいま、神奈川大学資料編纂室では、総合計画に

よる横浜キャンパスの建築群を振り返り、そこで過ごした日々の記憶をたぐりよせる特集展示をおこなうこととした。展示期間は二〇一九年十月一日（火）から十一月三十日（土）まで、場所は例年どおり横浜キャンパス三号館展示ホール（展示室内および同吹抜側壁面を用いた。本稿はその展示報告である）。

一、「神奈川大学総合計画」の概要

神奈川大学は、一九四九（昭和二十四）年にその前身である横浜専門学校から大学への昇格を果たした。これに続いて米田は、新しい大学に相応しい施設の整備拡充をめざし、「神奈川大学整備拡充計画」を発表した（『神奈川大学通信』第九号、一九五二年七月三十日付）。ここでは総工費五億円の六か年計画で、鉄筋コンクリート造三階建三千坪および総合グラウンド

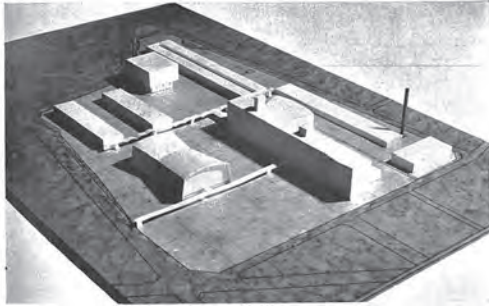


写真1「神奈川大学総合計画案 決定案」『国際建築』
(美術出版社、1954年3月号)

という概要が述べられている。横浜専門学校時代の建物は大講堂を残して他を一掃し、現在の東門を入ったところに大きな広場を設け、南北方向に伸びる校舎を正面に三棟配する、といった具体的な鳥瞰図も示されていた。しかし翌年、「当初の設計に適当でない部分と認められる部分がありこれを再検討する必要が生じたのと且つ新しい時代の大学のために」(『神奈川大

学通信』第十三号、一九五三年十二月二十五日付)、新たに設計競技を行うことになった。

この設計競技では、山口文象(RIA建築総合研究所)、久米権九郎(久米建築事務所)、吉原慎一郎(創和建築設計事務所)の三者に基本設計が依頼され、山口(RIA)による「神奈川大学総合計画案」が採用されている(写真1)。

この総合計画は、まず第一期工事として一九五五(昭和三十)年三月の旧三号館竣工で形をとり始めた。旧三号館は本学初の鉄筋コンクリート造で四階建(一部五階建)、収容定員は三六〇〇人となっている。高い天井窓の講義室群のほか、北側に突出した吹抜けの特別講義室や屋上のサンルームを備えていた。

竣工直後の『神奈川大学通信』第十九号(一九五五年三月三十一日付)には、この他に「全館蛍光照明」、「大面積の採光窓」、波形に曲折し圧迫感のない天井、「夜間学生には福音」となる見易い曲面黒板と局所照明、「手洗器を使うと直ちに水洗タンクの水が自動的に放出される特許装置」が備わった便所、等々の特長が誇らしげに列挙されている。ある卒業生によれば、講義(一般教養)に加えて、入口附近に掲示板があっ

たことで、学部や昼夜を問わず大半の学生はこの旧三号館を頻繁に訪れていたことである。旧三号館はまさに新しい大学を象徴する校舎であったが、横浜キャンパス再開発計画による一九九九（平成十一）年の減築を経て、二〇二二（平成三十四）年に解体された。

この旧三号館竣工目前の一九五五年一月、一九五一（昭和二十六）年に竣工したばかりの工学研究棟（第五校舎）が出火により全焼してしまう。工学研究棟は戦後の物資難の中、国からの戦災復旧貸付金を得てようやく建設された校舎で、内部の設備や資料も教職員が懸命に整えたものであった。その焼失は大きな打撃ではあったが、旧三号館の次に予定されていた本館の建設を延期して急遽五号館の建設工事が進められることになった（一九五六年十一月竣工、工学部研究室棟として現存）。

一方、高度経済成長長期に大学進学率が上昇、大学生の数が激増し、神奈川大学もその例外ではなかった。増加した入寮希望者に応えるため、一九五七（昭和三十三年）年、グラウンド西側（現在の二十号館の位置）に新しい男子学生寮「宮面寮」（A・B寮）が建てられた。鉄筋コンクリート造三階建て計三二〇名を収容

でき、採光調整のため特徴的な開口部をもっていた。寮は学生による自治寮として運営され、寮祭での仮装やファイヤーストームなどは盛大な賑いをみせたという。一九六〇年代後半からは学生運動の拠点にもなり、一部の学生による占拠や暴力事件により、後に建てられたC寮や女子寮と共に廃寮となる。

以降、六号館（旧図書館、一九五八年竣工、現存）、旧一号館（本館、一九五九年竣工、一九九九年解体）、そして四号館（工学部実験実習棟、一九六二年竣工、二〇二二年解体）が完成し、第一期工事は完了となった。続く第二期工事は一九六四（昭和三十九）年竣工の七号館（現存）に始まった。しかし首都圏整備法の改正により建築工事を一定期限内に終了せざるを得ず、当初平行に配置する計画であった七号十号館は中庭を囲む形に大きく変更された。食堂を備えた十号館とそれに中庭を挟んで向かい合う八号館（共に一九六五年竣工、現存）、大学院校舎として建てられた九号館（一九六六年竣工、現存）、十一号館・十二号館・体育館である十三号館（一九六七年竣工、現存）と続き、一九六九（昭和四十四）年一月の旧二号館（大講堂、一九九九年解体）をもって神奈川大学総合計画は完了

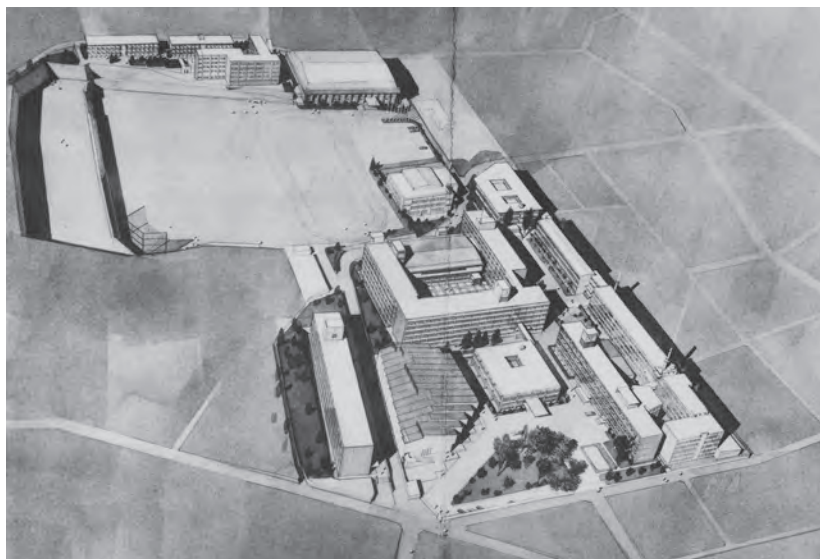


写真2 神奈川大学総合計画完了時の鳥瞰図（1969年か）

した（表1・関連年表参照）。

これらの総合建築は、優れたモダニズム建築として高い評価を得、また、日々少なからぬ時間をキャンパスで過ごす学生や教職員の日常の一部となっていた。

二、総合計画と記憶をたどる資料と展示

本展示にあたり、まずは前述のように神奈川大学総合計画の概要をたどる必要があった。総合計画に関しては、『神奈川大学五十年小史』（一九八二年）では総合計画の前段階の「神奈川大学整備拡充計画」の第一歩として旧三号館建設について記し（一九三―一九四頁）、さらに一九六一（昭和三十六）年の四号館着工から大講堂の竣工までを「施設拡充計画」の実施としている（二〇五―二〇六頁）。ただしその内容は限定的であるため、さしあたって、計画が発表されその後の進捗も伝えられた『神奈川大学通信』や『神奈川大学報』、『神奈川大学史資料集』にも所収の会議資料、また、近年刊行された『神奈川大学工学部建築学科創設50周年記念誌』（二〇一四年）といった文献資料により年表を作成し、基本的な流れをおさえることとした。

また、総合計画に基づいた具体的な建築設計につい

ては、資料編纂室が施設課から二〇一六（平成二十八年）年七月に受入れた大量の図面群を整理する必要があった。まず総合計画以外も含めた建物別に凡その整理・分類を行い、紙面の汚れを払い、必要に応じて綴じ曲がりや折れを直しつつ一枚ずつIDを振り図面の内容を登録していった。作業は予想以上に時間を要し、現時点でまだ完了はしていない。しかし既に横浜専門学校期や大学昇格時の書類や図面といった貴重な資料が確認され、なおかつ総合計画に関わる各号館の図面の大半は登録が済んだ。今回の展示にあたっては、総合計画実施における設計者からの提出図面など、有効な資料を選び出すことができた。今後は登録作業の完了とデジタル化に向けた検討が課題である。

展示では、展示室に入っすぐのスペースに特集展示コーナーを設けた（写真3）。ここにはまず、総合計画全体を鳥瞰したA0サイズの水彩画、竣工前後に製作されたと考えられる建築模型を配した。

水彩画は近年資料編纂室内で確認されたもので、過去の刊行物でモノクロ図版として使用されていたものの原本である。鮮やかな色を保っていたが、強く折りたたまれていたために中央に亀裂があり、応急処置と

して注意深く平滑化（フラットニング）を施した上で額装した。

模型は、現在では減多に見られなくなった石膏製



写真3 展示室内

で、専門の会社によるものである。ガラスケースが被せてあるものの汚損や細かいパーツの欠損があり、可能な限りクリーニングと修復を施して展示した(写真4)。

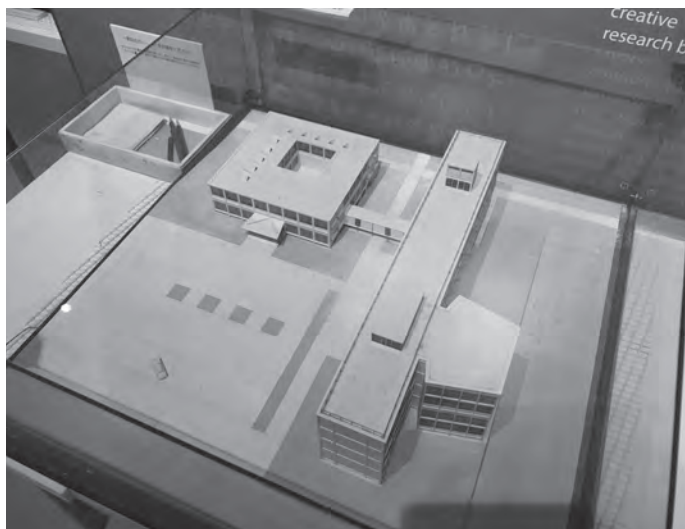


写真4 旧1号館・旧3号館模型

また、本計画が紹介された建築雑誌、校舎が写った絵葉書、キャンパスの俯瞰図をかたどった卒業記念品(文鎮)、講堂で使われた鍵などを、日本常民文化研究所から展示ケース二台を借用して展示した(表2・展示資料一覧参照)。



写真5 吹抜側展示(部分)

吹抜側壁面の展示は、十列で各上下二段の吊下げスタイルとした(写真5)。下段をA1サイズのパネルとし、それぞれ竣工年順に校舎などの建物写真や新聞記事、キャンパス内のスナップや鳥瞰写真などを九枚から二十枚ずつ配し、解説を記した。ここでは、二〇一八(平成三〇)年にデータを提供していただいたばかりの元本学職員・酒井満氏撮影の鮮明な写真群が非常に役立った。パネルで利用したもの以外にも、工事中の校舎や人物の写真など、その時、その立場でなければ記録できない情報に溢れた資料である。

そしてその上段には、下段で示した校舎の設計図面を一枚ないし二枚ずつ簡易な額に入れて展示した。これらは原資料(実物)で、特に青図や青焼き図面は光に弱く長時間の展示により褪色のおそれが高いため、上段は約半期(一か月)で全て展示替えをおこなった。本展示では、できるだけ広い層に関心をもってもらうため、建築史的アプローチを敢えて積極的にはとらず、学生や教職員が過ごした空間としての横浜キャンパスの記憶をたどろうとした。しかしこれまで資料編纂室が収集した資料だけではそれが不十分であること、また、展示期間中のホームカミングデーでは例年

卒業生が多く訪れることから、これを機にキャンパスにまつわる記憶——想い出、エピソード——を新たに収集し、同時に公開して、現役の利用者も含め、展示室が記憶の交感の場ともなることを期待した。その一つの仕掛けとして、展示室内に「My Memories」と小さく印刷した10cm角のカードと鉛筆を設置し、記入日、入学または就職年のほかは無記名での記入を呼びかけた。記入後はカード裏面に付けた両面テープを使い、吹抜側展示壁面の余白に各自が自由に貼れるようにした。

ところが、十月十三日のホームカミングデーは、おりからの台風十九号の影響により急遽開催中止となつてしまった。結局、展示期間中に貼られたカードは、ほぼ現役職員による七枚のみであった。これはホームカミングデーに焦点を当てすぎ、その前後の来場者への呼びかけが不足していたことの大きな反省にもなった。ただ、この七枚に地域の方からの一枚が含まれていたのは嬉しい想定外であった。カードには、キャンパスからの眺望について記されていた。キャンパスの記憶は、その敷地内に留まるものではない。

おわりに

資料編纂室では、資料受贈やこれまでのオープンキャンパスなどの折に卒業生と話をする中で、〃キャンパスが様変わりして母校ではないようだ〃、自分がいたころを思い出すのは六号館（旧図書館）くらいで、あれを見るとほっとする〃など、キャンパスの建物はそれぞれの記憶の拠り所なのだど強く感じる発言にしばしば接していた。今回の展示は、そうした卒業生の思いを少しでも受け止め、共有することができればという思惑もあつたが、残念ながらその点は果たすことができなかった。

また、肝心の総合計画についても、十分に全体を把握できたとはいえない。例えば建物の「竣工」についても、建設のどの時点を「竣工」とするか、基準が曖昧で資料によってばらつきがあるため、年表を作るだけでも難航した。

ただ、今回の展示準備やそれに並行して進めた『神奈川大学90年のあゆみ』編集のための資料調査により、埋もれていた数々の資料を確認し読み解くことができたのは、一つの収穫と考えている。例えば、横浜専門学校（境之谷）校舎の一部が六角橋に移

築され、事務室、さらには物理実験室などとして使用されたことは指摘されていた（津田良樹「横浜専門学校から神奈川大学に至る校地・校舎の変遷」十五頁、『神奈川大学史紀要』第三号、二〇一八年三月）。注意して資料にあたると、この建物が写る写真は意外に多く、高層化していくキャンパスの谷間で、おそらく四号館（一九六二年竣工）が着工する頃まで、旧三号館の西にひっそりと残っていたようである。わずかな期間ではあるが富士塚で過ごした横浜専門学校生にとっては、どのような記憶を呼び覚ます建物であったらうか。

最後に、『神奈川大学90年のあゆみ』において「キャンパスの変遷」部分を執筆され、展示にあたり総合計画（拡充計画）をたどる上で欠かせない文献としてくださった建築学科の内田青蔵先生と、図面の整理・登録作業にあたり貴重なアドバイスを下さった国立近現代建築資料館（当時）の海老名熱実様、これまで地道な整理作業にあたった建築学科学生（卒業・修了生含む）の石原丈さん、李勇太さん、佐藤正樹さん、野々村明佳里さん、図面整理と建築模型の修復を担ってくれた下山美月さんに御礼申し上げます。

表1・関連年表

大学史特集展示「横浜キャンパスの記憶」関連年表			
西暦	和暦	月	事項
1949	昭和24	4	神奈川大学設置（横浜専門学校からの昇格）
1952	昭和27	7	神奈川大学整備拡充計画発表。6か年計画で総工費5億円
1953	昭和28	12	10月に第一期着工予定だった整備拡充計画を再検討。「設計原案に無駄があったので設計のやりなおしのため遅延した。本年度中に着手の筈。学生にこの旨掲示のこと」（10月24日教授会）
			新たに山口文象（RIA 建築総合研究所）、久米権九郎（久米建築事務所）、吉原慎一郎（創和建築設計事務所）の三者に基本設計を依頼、この中からRIAの「神奈川大学総合計画案」が選ばれる
1954	昭和29	3	RIA 総合建築研究所による実施設計が完了。第一期計画として旧1号館（本館）と旧3号館を予定
		5	旧3号館着工
1955	昭和30	1	工学部研究棟（1951年5月竣工）全焼
		3	旧3号館竣工 本学初の鉄筋コンクリート建築、地上4階（一部5階）。31日の卒業式当日に松村文部大臣を招いて落成式を行う
1956	昭和31	10	旧5号館（工学研究棟）竣工
1957	昭和32	4	男子寮（宮面寮）A、B寮竣工
		11	旧3号館に講堂増築
1958	昭和33	4	6号館（図書館、現・情報教育施設）竣工
1959	昭和34	11	旧1号館（本館）竣工。地下に学生相談室が常設される
1960	昭和35	4	旧3号館屋上にチャイム・ベルが設置される
		9	正門内側に公衆電話ボックスが設置される 6号館、5号館（右）
1961	昭和36	10	施設拡充計画案作成。1966年の大学院開設、1970年の施設拡充完了をめざす
1962	昭和37	11	4号館（工学部実験実習棟）竣工、第一期拡充計画完了。総合グラウンド公開
1963	昭和38	8	7号館着工、第二期拡充計画開始。急ピッチで建設が進められる
1964	昭和39	3	男子寮（宮面寮）C寮竣工
		9	7号館竣工
1965	昭和40	8	10号館竣工
		10	8号館竣工
1966	昭和41	6	9号館竣工
1967	昭和42	1	11号館竣工
		3	13号館（体育館）竣工
		4	女子寮竣工 キャンパス計画案（1964）
		6	初代（1932年竣工）大講堂解体、12号館（建築学科総合実験所）竣工
1968	昭和43	11	旧2号館（大講堂）竣工
1969	昭和44	1	旧2号館（大講堂）完成（公開）、神奈川大学総合計画完了
1980	昭和55	7	15号館（現図書館）竣工、11月開館
1981	昭和56	11	男子寮および女子寮廃止
1999	平成11	6	横浜キャンパス再開発計画（1998-2002）に伴い、旧1号館・2号館解体、旧3号館および4号館減築
2012	平成24	3	旧3号館、4号館解体
<p>※「竣工」の定義が落成式や引渡し日などの可能性もあり統一されないため、典拠資料により前後一か月ほど差が生じる場合があります。ここでは原則として大学新聞などで「竣工」と報じられた時期を採用し、時期に大きく開きがある場合は竣工と完成や公開の両方を記しています。</p>			
参考文献	『神奈川大学史資料集』、『神奈川大学通信』、『神奈川大学報』、『神奈川大学五十年小史』（1982）、『神奈川大学工学部建築学科創設50周年記念誌』（2014）、『神奈川大学90年のあゆみ』（2019）		

表2・展示資料一覧

大学史特集展示「横浜キャンパスの記憶」展示資料一覧			
展示位置	タイトル	作成年 (前/後期)	作成者
ケース1	神奈川大学 KANAGAWA UNIVERSITY (絵葉書)	1957年か	(神奈川大学)
ケース1	新装の神奈川大学 (絵葉書)	1964年か	(神奈川大学)
ケース1	図書館落成記念 (絵葉書)	1958年	神奈川大学
ケース1	『国際建築』第21巻第3号 (1954年3月1日)	1954年	編集:国際建築協会、 発行:美術出版社
ケース1	神奈川大学図書館立面図	1957年か	RIA 建築総合研究所
ケース2	『オール・アイ・エー建築総合研究所【30周年記念】』	1983年	株式会社オール・ アイ・エー建築 総合研究所
ケース2	旧2号館 (大講堂) の鍵	1968年か	不明
ケース2	1963 (昭和38) 年度卒業記念文鎮	1964年か	神奈川大学
ケース2	1964 (昭和39) 年度卒業記念文鎮	1965年か	神奈川大学
ケース2	1965 (昭和40) 年度卒業記念文鎮	1966年か	神奈川大学
ケース2	神奈川大学記念講堂新築完成図 (簿冊)	1968年	関工務店
ケース2	神奈川大学記念講堂新築屋外竣工図 (簿冊)	1968年か	関工務店
ケース2	『21世紀の神奈川大学 横浜キャンパス再開発計画』	1998年	神奈川大学
展示室壁1	タイトル・概要		
展示室壁2	(水彩画) 神奈川大学総合計画完了時の鳥瞰図	1969年か	不明
展示室壁3	年表		
展示室内入口付近	旧1号館 (本館)、旧3号館石膏模型	1955年頃	株式会社植野石 膏模型製作所
展示室内入口付近	5号館石膏模型	1956年頃	彫美社
展示室内入口付近	6号館石膏模型	1958年頃	株式会社植野石 膏模型製作所
吹抜壁1上フレーム	〔前期〕旧3号館R・4階梁伏図/ 〔後期〕旧3号館3・2階梁伏図	1954.3.10	建築総合研究所
吹抜壁2上フレーム	〔前期〕5号館原設計案 配置図、立面図/ 〔後期〕5号館原設計案「メインイリクチ」	1955.10.31	ria 建築総合研究所
吹抜壁3上フレーム	〔前期〕宮面寮平面、給排、暖、配管系統図/ 〔後期〕神奈川大学学生寮平面図	不明	RIA 建築総合研 究所
吹抜壁4上フレーム	〔前期〕神奈川大学図書館新築工事 2階平面図/ 〔後期〕神奈川大学図書館 RIA 1階平面図、E 立面図	1979年/不明	RIA 建築総合研 究所/山口瀧蔵・RIA
吹抜壁5上フレーム	〔前期〕旧本館建具詳細図/〔後期〕旧本館立面図	1968.7/1968か	RIA か
吹抜壁6上フレーム	〔前期〕4号館詳細図/〔後期〕4号館立面図	不明	RIA・山口文象
吹抜壁7上フレーム	〔前期〕神奈川大学寄宿寮 (C 寮) 基本設計図/ 〔後期〕神奈川大学学生寮 (A・B 寮) 設備平面図	不明	RIA か
吹抜壁8上フレーム	〔前期〕8号館6階平面図/ 〔後期〕10号館、8号館申請時校舎配置図	不明	不明/山口瀧蔵
吹抜壁9上フレーム	〔前期〕11号館立面図/〔後期〕神奈川大学11号館立面図	1966年か	ria 建築総合研究所
吹抜壁10上フレーム	〔前期〕神奈川大学講堂新築工事面積表 1階・2階/ 〔後期〕大講堂断面図	1967.7.17	ria 建築総合研究所
吹抜壁1下パネル	旧3号館 (1955~2012)		
吹抜壁2下パネル	5号館 (1956~現存)		
吹抜壁3下パネル	宮面寮 (A.B 寮) (1957~1981)		
吹抜壁4下パネル	6号館 (1958~現存)		
吹抜壁5下パネル	旧本館 (1959~1999)		
吹抜壁6下パネル	4号館 (1962~2012)		
吹抜壁7下パネル	宮面寮 (C 寮) (1964~1981)、7号館 (1964~現存)		
吹抜壁8下パネル	10号館・8号館 (1965~現存)		
吹抜壁9下パネル	9号館 (1966~現存)、11号館・体育館 (1967~現存)、 12号館・13号館 (1967~現存)		
吹抜壁10下パネル	旧2号館 (大講堂) (1969~1999)		